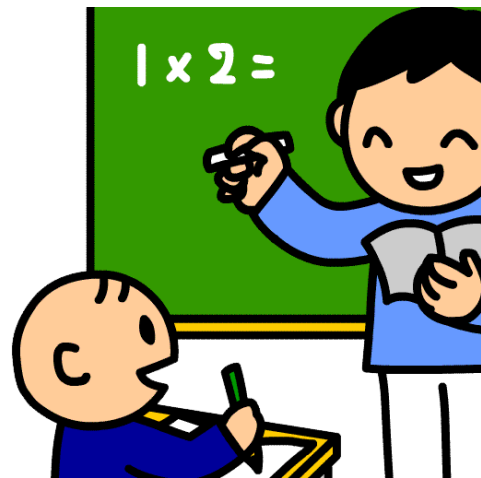


# 第3章

## 資料編



学習指導要領の各教科編に記載されている内容をまとめたものや、個別の指導計画の枠等、実践する上で参考になる資料を集めました。






# 1 小学校・中学校の各教科等における，障がいの状態に応じた指導上の工夫




各教科の「学習指導要領解説」の中の「障がいのある児童（生徒）への配慮についての事項」を、観点別の表に再構成しました。



※各教科等の   は、学習指導要領解説の該当ページを示しています。



	困難さ・その状態	指導上の工夫の意図	具体的な手立て（例）
国語科・小	文章を目で追いながら音読すること	自分がどこを読むのかが分かるように	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の文を指等で押さえながら読むよう促す。</li> <li>行間を空けるために拡大コピーをしたものを用意する。</li> <li>語のまとまりや区切りが分かるように分かち書きされたものを用意する。</li> <li>読む部分だけが見える自助具（スリット等）を活用する。</li> </ul>
	自分の立場以外の視点で考えたり他者の感情を理解したりすること	行動や会話文に気持ちが込められていることに気付けるように	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の日常的な生活経験に関する例文を示す。</li> <li>気持ちの移り変わりが分かる文章の中のキーワードを示す。</li> <li>気持ちの変化を図や矢印などで視覚的に分かるように示してから言葉で表現させる。</li> </ul>
	声を出して発表すること人前で話すことへの不安を抱いている	自分の考えを表すことに対する自信がもてるように	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙やホワイトボードに書いたものを提示する。</li> <li>ICT機器を活用して発表する。</li> <li>多様な表現方法が選択できるようにする。</li> </ul> <div style="text-align: right;">  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 10px;">P159~160</span> </div>
国語科・中	自分の立場以外の視点で考えたり他者の感情を理解したりすること	文章に表れている心情やその変化等が分かるように	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が身近に感じられる文章（例えば、同年代の主人公の物語など）を取り上げ、行動の描写や会話文に含まれている気持ちがよく伝わってくる語句等に気付かせる。</li> <li>心情の移り変わりが分かる文章の中のキーワードを示す。</li> <li>心情の変化を図や矢印などで視覚的に分かるように示してから言葉で表現させる。</li> </ul>
	比較的長い文章を書くなど一定量の文字を書くこと	文字を書く負担を軽減するために	<ul style="list-style-type: none"> <li>手書きだけではなくICT機器を使って文章を書くことができるようにする。</li> </ul>
	声を出して発表すること人前で話すことへの不安を抱いている	自分の考えを表すことに対する自信がもてるように	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙やホワイトボードに書いたものを提示する。</li> <li>ICT機器を活用する。</li> <li>多様な表現方法が選択できるようにする。</li> </ul> <div style="text-align: right;">  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 10px;">P135~137</span> </div>




	困難さ・ その状態	指導上の工夫 の意図	具体的な手立て（例）
社会 科 ・ 小	地図等の資料から必要な情報を見付け出したり、読み取ったりすること	読み取りやすくするために	・地図等の情報を拡大したり、見る範囲を限定したりして、掲載されている情報を精選し、視点を明確にする。
	社会的事象に興味・関心がもてない	その社会的事象の意味を理解しやすくするために	・社会の営みと身近な生活がつながっていることを実感できるように、特別活動などとの関連付けなどを通して、具体的な体験や作業などを取り入れ、学習の順序を分かりやすく説明し、安心して学習できるようにする。
	学習問題に気付くこと	社会的事象を読み取りやすくするために	・写真などの資料や発問を工夫する。
	予想を立てること	見通しがもてるように	・ヒントになる事実をカード等に整理して示し、学習順序を考えられるようにする。
	情報収集や考察、まとめの場面において、考える際の視点が定まらない	（視点が定まるように）	・見本を示したワークシートを作成する。  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">P139~140</span>
社会 科 ・ 中	地図等の資料から必要な情報を見付け出したり、読み取ったりすること	読み取りやすくするために	・地図等の情報を拡大したり、見る範囲を限定したりして、掲載されている情報を精選し、視点を明確にする。
	社会的事象等に興味・関心がもてない	その社会的事象等の意味を理解しやすくするため、社会の動きと身近な生活がつながっていることを実感できるように	・特別活動などとの関連付けなどを通して、実際的な体験を取り入れ、学習の順序を分かりやすく説明し、安心して学習できるようにする。

	困難さ・ その状態	指導上の工夫 の意図	具体的な手立て（例）
	学習過程における動機付けの場面において学習上の課題を見いだすこと	社会的事象等を読み取りやすくするために	・写真などの資料や発問を工夫する。
	方向付けの場面において、予想を立てること	見通しがもてるように	・ヒントになる事実をカード等に整理して示し、学習順序を考えられるようにする。
	情報収集や考察、まとめの場面において、どの観点で考えるのか難しい	（観点を明確にできるように）	・ヒントが記入されているワークシートを作成する。  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 10px;">P173~174</span>
算 数 科	「商」「等しい」など、児童が日常使用することが少なく、抽象度の高い言葉の理解	児童が具体的にイメージをもつことができるように	・児童の興味・関心や生活経験に関連の深い題材を取り上げて、既習の言葉や分かる言葉に置き換える。
	文章を読み取り、数量の関係を式を用いて表すこと	児童が数量の関係をイメージできるように	・児童の経験に基づいた場面や興味ある題材を取り上げたり、場面を具体物を用いて動作化させたり、解決に必要な情報に注目できるように文章を一部分ごとに示したり、図式化したりする。
	空間図形のもつ性質を理解すること	空間における直線や平面の位置関係をイメージできるように	・立体模型で特徴のある部分を触らせるなどしながら、言葉でその特徴を説明したり、見取図や展開図と見比べて位置関係を把握したりする。
	データを目的に応じてグラフに表すこと	目的に応じたグラフの表し方があることを理解するために	・同じデータについて折れ線グラフの縦軸の幅を変えたグラフに表したり、同じデータを棒グラフや折れ線グラフ、帯グラフなど違うグラフに表したりして見比べることを通して、よりよい表し方に気付くことができるようにする。  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 10px;">P327~328</span>

	困難さ・ その状態	指導上の工夫 の意図	具体的な手立て（例）
数 学 科	文章を読み取り、数量の関係を、文字式を用いて表すこと	生徒が数量の関係をイメージできるように	・生徒の経験に基づいた場面や興味のある題材を取り上げ、解決に必要な情報に注目できるように印を付けさせたり、場面を図式化したりする。
	空間図形のもつ性質を理解すること	空間における直線や平面の位置関係をイメージできるように	・立体模型で特徴のある部分を触らせるなどしながら、言葉でその特徴を説明したり、見取図や投影図と見比べて位置関係を把握したりする。  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">P164~165</span>
理 科 ・ 小	実験の手順や方法を理解すること	学習の見通しがもてるように	・実験の目的を明示したり、実験の手順や方法を視覚的に表したプリント等を掲示したり、配付したりする。
	見通しを持って学習活動に参加すること		
	燃焼実験のように危険を伴う学習活動において、危険に気づきにくい	（危険を伴わないように）	・教師が確実に様子を把握できる場所で活動できるように配慮する。
	自然の事物・現象を観察する活動において、時間をかけて観察をすること	（時間をかけて観察することができるように）	・観察するポイントを示したり、ICT教材を活用したりする。  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">P96~97</span>
理 科 ・ 中	実験を行う活動において、実験の手順や方法を理解すること	見通しがもてるように	・実験の操作手順を具体的に明示したり、扱いやすい実験器具を用いたりする。
	燃焼実験のように危険を伴う学習活動	（危険を伴わないように）	・教師が確実に様子を把握できる場所で活動させるなどの配慮をする。  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">P118~119</span>


	困難さ・ その状態	指導上の工夫 の意図	具体的な手立て（例）
生 活 科	言葉での説明 や指示だけ で、安全に気 を付けること	その説明や指 示の意味を理 解し、なぜ危 険なのかをイ メージできる ように	・体験的な事前学習を行う。
	みんなで使う もの等を大切 に扱うこと	大切に扱うこ との意義や他 者の思いを理 解できるように	・学習場面に即して、児童の生活経験等も踏まえながら具体的に教える。
	自分の経験を 文章にした り、考えをま とめたりする こと	児童がどのよ うに考えれば よいのか、具 体的なイメ ージを想起し やすいように	・考える項目や順序を示したプリントを準備したり、事前に自分の考えたことを言葉や動作で表現したりしてから文章を書くようにする。
	学習の振り返 りの場面にお いて学習内容 の想起が難し い	学習経過を思 い出しやすい ように	・学習経過などの分かる文章や写真、イラスト等を活用する。  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 10px;">P65~66</span>
音 楽 科 ・ 小	音楽を形づく っている要素 （リズム、速 度、旋律、強 弱、反復等）の 聴き取り	要素に着目し やすくなるよ うに	・音楽に合わせて一緒に拍を打ったり体を動かしたりするなどして、要素の表れ方を視覚化、動作化する。なお、動作化する際は、決められた動きのパターンを習得するような活動にならないよう留意する。
	多くの声部が 並列している 楽譜など、情 報量が多く、 児童がどこに 注目したらよ いのか混乱し やすい	（混乱しない ように）	・拡大楽譜などを用いて声部を色分けしたり、リズムや旋律を部分的に取り出してカードにしたりするなど、視覚的に情報を整理する。   <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 10px;">P121~122</span>





	困難さ・ その状態	指導上の工夫 の意図	具体的な手立て（例）
音楽科 ・ 中	音楽を形づく っている要素 （音色，リズム， 速度，旋律，テクス チュア，強弱，形 式，構成など） を知覚すること	要素に着目し やすくできる ように	・音楽に合わせて一緒に拍を打ったり体を動かしたりするなどして，要素の表れ方を視覚化，動作化する。なお，動作化する際は，決められた動きのパターンを習得するような活動にならないよう留意する。
	音楽を聴くこと によって自分の 内面に生まれる様 々なイメージや感 情を言語化する こと	表現したい言葉 を思い出すきっ かけとなるよう に	・イメージや感情を表す形容詞などのキーワードを示し，選択できるようにする。  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 10px;">P95～97</span>
図画 工 作 科	変化を見分け たり，微妙な 違いを感じ取 ったりすること	造形的な特徴 を理解し，技能 を習得する ように	・児童の経験や実態を考慮して，特徴が分かりやすいものを例示したり，多様な材料や用具を用意したり，種類や数を絞ったりする。
	形や色などの 特徴を捉える ことや，自分の イメージをも つこと	形や色などに 気付くことや 自分のイメージ をもつことの きっかけを 得られるよう に	・自分や友人の感じたことや考えたことを言葉にする場を設定する。  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 10px;">P110～111</span>
美術 科	形や色彩など の変化を見分 けたり，微妙 な変化を感じ 取ったりする こと	（見分けたり， 微妙な変化を 感じ取ったり できるよ うに）	・生徒の実態やこれまでの経験に応じて，造形の要素の特徴や働きがわかりやすいものを例示する。
		一人一人が自 分に合ったも のが選べるよ うに	・多様な材料や用具を用意したり種類や数を絞ったり，造形の要素の特徴や働きがわかりやすいものを例示したりする。

	困難さ・ その状態	指導上の工夫 の意図	具体的な手立て（例）
	造形的な特徴 などからイメ ージを捉える こと	形や色など に対する気付き や豊かなイメ ージにつな がるように	・自分や他の人の感じたことや考えたことを言葉 にする場を設定する。  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 10px;">P122~123</span>
家庭 科 ・ 小	学習に集中し たり、持続し たりすること	落ち着いて学 習できるように	・道具や材料を必要最小限に抑えて準備したり、整 理・整頓された学習環境で学習できるように工夫 したりする。
	活動への関心 をもつこと	（関心が高ま るように）	・約束や注意点、手順等を視覚的に捉えられる掲示 物やカードを明示したり、体感できる教材・教具 を活用したりして関心を高める。
	周囲の状況に 気が散りやす く、包丁、アイ ロン、ミシン などの用具を 安全に使用す ること	手元に集中し て安全に作業 に取り組める ように	・個別の対応ができるような作業スペースや作業 時間を確保する。  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 10px;">P75~76</span>
体 育 科	複雑な動きを したり、バラ ンスを取った りすること	極度の不器用 さや動きを組 み立てること への苦手さが あることが考 えられること から	・動きを細分化して指導したり、適切に補助をしな がら行ったりする。
	勝ち負けに過 度にこだわっ たり、負けた 際に感情を抑 えられなかつ たりする	活動の見通し がもてなかつ たり、考えた ことや思った ことをすぐに 行動に移して しまったりす ることがある ことから	・活動の見通しを立ててから活動させたり、勝った ときや負けたときの表現の仕方を事前に確認し たりする。  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 10px;">P165~166</span>



	困難さ・その状態	指導上の工夫の意図	具体的な手立て（例）
保健体育科	見えにくさのため活動に制限がある	不安を軽減したり安全に実施したりすることができるように	・活動場所や動きを事前に確認したり、仲間同士で声を掛け合う方法を事前に決めたり、音が出る用具を使用したりする。
	身体の動きに制約があり、活動に制限がある	生徒の実情に応じて仲間と積極的に活動できるように	・用具やルールの変更を行ったり、それらの変更について仲間と話し合う活動を行ったり、必要に応じて補助用具の活用を図ったりする。
	リズムやタイミングに合わせて動くことや複雑な動きをすること、ボールや用具の操作等	動きを理解したり、自ら積極的に動いたりすることができるように	・動きを視覚的又は言語情報に変更したり簡素化したりして提示する。動かす体の部位を意識させる。操作が易しい用具の使用や用具の大きさを工夫したりする。
	試合や記録測定、発表などの状況の変化への対応が求められる学習活動への参加	生徒の実情に応じて状況の変化に対応できるように	・挑戦することを認め合う雰囲気づくりに配慮したり、ルールの弾力化や場面設定の簡略化を図ったりする。
	日常生活とは異なる環境での活動	不安を解消できるように	・学習の順序や具体的な内容を段階的に説明する。
	対人関係への不安が強く、他者の体に直接接触れること	仲間とともに活動することができるように	・ロープやタオルなどの補助用具を用いる。
	自分の力をコントロールすること	状況に応じて力のコントロールができるように	・力の出し方を視覚化したり、力の入れ方を数値化したりする。
	勝ち負けや記録にこだわり過ぎて、感情をコントロールすること	状況に応じて感情がコントロールできるように	・事前に活動の見通しを立てたり、勝ったときや負けたとき等の感情の表し方について確認したりする。



	困難さ・その状態	指導上の工夫の意図	具体的な手立て（例）
	グループでの準備や役割分担	準備の必要性やチームで果たす役割の意味について理解することができるように	・準備や役割分担の視覚的な明示や生徒の実情に応じて取り組むことができる役割から段階的に取り組ませる。
	保健の学習で、実習などの学習活動に参加すること	実習の手順や方法が理解できるように	・それらを視覚的に示したり、一つ一つの技能を個別に指導したりする。  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">P233~235</span>
技術・家庭科	技術分野では、「A材料と加工の技術」の(2)において、周囲の状況に気が散りやすく、加工用の工具や機器を安全に使用すること	障害の状態に応じて、手元に集中して安全に作業に取り組めるように	・個別の対応ができるような作業スペースや作業時間を確保したり、作業を補助するジグを用いたりする。
	「D情報の技術」の(2)及び(3)において、新たなプログラムを設計すること	生徒が考えやすいように	・教師があらかじめ用意した幾つかの見本となるプログラムをデータとして準備し、一部を自分なりに改良できるようにするなど、難易度の調整や段階的な指導に配慮する。
	家庭分野では、「B衣食住の生活」の(3)及び(5)において、調理や製作等の実習を行う際、学習活動の見通しをもったり、安全に用具等を使用したりすること	(見通しを持ったり、安全に活動したりできるように)	・個に応じた段階的に手順を写真やイラストで提示する。 ・安全への配慮を徹底するために、実習中の約束事を決め、随時生徒が視覚的に確認できるようにする。

	困難さ・その状態	指導上の工夫の意図	具体的な手立て（例）
	グループで活動すること	（グループで活動できるように）	・他の生徒と協力する具体的な内容を明確にして役割分担したり、役割が実行できたかを振り返ることができるようにしたりする。  <b>P125～126</b>
外国語活動	音声を聞き取ること	外国語と日本語の音声やリズムの違いに気付くことができるように	・リズムやイントネーションを、教員が手拍子を打つ、音の強弱について手を上下に動かして表す。
	【記載なし】	本時の流れが分かるように	・本時の活動の流れを黒板に記載しておく。  <b>P47～48</b>
外国語・小	音声を聞き取ること	外国語と日本語の音声やリズムの違いに気付くことができるように	・リズムやイントネーションを、教員が手拍子を打つ、音の強弱について手を上下に動かして表す。
	【記載なし】	本時の流れが分かるように	・本時の活動の流れを黒板に記載しておく。
	1単語当たりの文字数が多い単語や、文などの文字情報になると、読む手掛かりをつかんだり、細部に注意を向けたりすることが難しい	語のまとまりや文の構成を見て捉えやすくするように	・外国語の文字を提示する際に字体をそろえたり、線の上に文字を書いたり、語彙・表現などを記したカードなどを黒板に貼る際には、貼る位置や順番などに配慮する。  <b>P126～127</b>
外国語・中	（英語の語には、発音と綴りの関係に必ずしも規則性があるとは限らないものが多く、）明確な規則にこだわって強い不安や抵抗感を抱いてしまう	安心して発音できるように	・語を書いたり発音したりすることをねらう活動では、その場で発音することを求めず、ねらいに沿って安心して取り組めるようにしたり、似た規則の語を選んで扱ったりする。  <b>P88～89</b>

特別の教科	<p>他者との社会的関係の形成に困難がある児童（生徒）の場合であれば、相手の気持ちを想像することが苦手で字義通りの解釈をしてしまうことがあることや、暗黙のルールや一般的な常識が理解できないことがあることなど困難さの状況を十分に理解した上で、例えば、他者の心情を理解するために役割を交代して動作化、劇化したり、ルールを明文化したりするなど、学習過程において想定される困難さとそれに対する指導上の工夫が必要である。</p>		
道徳・小/中	<p>評価を行うに当たっても、困難さの状況ごとの配慮を踏まえることが必要である。前述のような配慮を伴った指導を行った結果として、相手の意見を取り入れつつ自分の考えを深めているかなど、児童（生徒）が多面的・多角的な見方へ発展させていたり道徳的価値を自分のこととして捉えていたりしているかといったことを丁寧に見取る必要がある。</p>		
中	<p>発達障害等のある児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するため、道徳的価値の理解を深めていることをどのように見取るのかという評価資料を集めたり、集めた資料を検討したりするに当たっては、相手の気持ちを想像することが苦手であることや、望ましいと分かっているにもかかわらずできないことがあるなど、一人一人の障害により学習上の困難さの状況をしっかりと踏まえた上で行い、評価することが重要である。</p>		
	困難さ・その状態	指導上の工夫の意図	具体的な手立て（例）
総合的な学習の時間	様々な事象を調べたり、得られた情報をまとめたりすること	必要な事象や情報を選択して整理できるように	・着目する点や調べる内容、まとめる手順や調べ方について具体的に提示する。
小/中	関心のある事柄を広げること	関心のもてる範囲を広げることができるように	・現在の関心事を核にして、それと関連する具体的な内容を示していく。
小/中	様々な情報の中から、必要な事柄を選択して比べること	具体的なイメージをもって比較することができるように	・比べる視点の焦点を明確にしたり、より具体化して提示したりする。
	学習の振り返り	学習してきた場面を想起しやすいように、思い出すための手掛かりが得られるように	・学習してきた内容を文章やイラスト、写真等で視覚的に示す。



P113~114(小), P115~116(中)

	困難さ・その状態	指導上の工夫の意図	具体的な手立て（例）
	人前で話すことへの不安から、自分の考えなどを発表することが難しい	安心して発表できるように	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表する内容について紙面に整理し、その紙面を見ながら発表できるようにしたり、ICT機器を活用したりしながら、児童（生徒）の表現を支援するための手立てを工夫できるようにする。</li> </ul>  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">P43～44(小)、43～44(中)</span>
特別活動・小/中	相手の気持ちを察したり理解したりすることが苦手	他者の心情等を理解しやすいように	<ul style="list-style-type: none"> <li>役割を交代して相手の気持ちを考えたり、相手の意図を理解しやすい場面に置き換えたりすることや、イラスト等を活用して視覚的に表したりする指導を取り入れる。</li> </ul>
	話を最後まで聞いて答えることが苦手	発言するタイミングが理解できるように	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に発言や質問する際のタイミングなどについて具体的に伝えるなど、コミュニケーションの図り方についての指導をする。</li> </ul>
	学校行事における避難訓練等の参加に対し、強い不安を抱いたり戸惑ったりする	見通しがもてるよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>各活動・学校行事のねらいや活動の内容、役割（得意なこと）の分担などについて、視覚化したり、理解しやすい方法を用いたりして事前指導を行うとともに、周囲の児童（生徒）に協力を依頼しておく。</li> </ul>  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">P148～149(小)、122～123(中)</span>



障がい種別、学びの場別の支援の視点としては、「[教育支援資料](#)」（文部科学省：平成25年10月、ダウンロード可）に、「障害の状態等に応じた教育的対応」が記載されています。項目ごとに確認することができますので、ご活用ください。



ADHD傾向の児童生徒の場合

(作成日) 平成 年 月 日

【通常の学級用】 個別の教育支援計画・個別の指導計画シート (簡易版1)

	◇◇学校 年 組	担任名	〇〇〇〇
氏名 (フリガナ)	( )	男・女	生年月日 年 歳
保護者氏名		連絡先:	
諸検査結果	WISC-IV等 FIQ VRI PRI ...	実態把握のためのチェックシ 言葉・文字 操作・動きの苦手	
相談機関	なし	診断名と各機関の支援 なし ① 見通しがもちにくい。 ② 手順表があると落ち着いて そわそわし始めたら、声 ることを聞く。	
必要な支援 (支援会議)	見通しがもてるように配慮する。 ・手順表を示す ・終わりの時間を明確にする		

合理的配慮実践事例集 (H29 長野県教育委員会) P165~

診断名や各機関との連携がなくても、児童・生徒の実態を記載する。

諸検査, 相談機関との連携がある場合には, 記載する。

指導計画

指導場面	めあて	支援内容	評価
授業中	授業で取り組むことに見通しをもって, 授業の終わりまで参加できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時で取り組む内容を順番にホワイトボードに記載し, 授業の始めに確認をする。</li> <li>やることが分からない時は, すぐに教師に聞くことを約束する。</li> </ul>	ホワイトボードの手順表を声に出しながら確認した。分からないことはすぐに質問し, 落ち着いて授業に取り組む姿が増えている。
児童会			
宿題	教科学習, 宿題, テスト, 生徒会, 部活など指導の場面ごとに記入する。	校内の関わる職員すべてが, 支援や配慮する点について記入する。	その子の姿だけでなく支援の有効性についても評価する。
全体を通して行う支援			
<ul style="list-style-type: none"> <li>本児にやってほしいことを伝えるときは, 紙に書いたり, 手順表に示したりして伝える。</li> <li>やることが分からなくて困っているときには, 声をかけたり, 何に困っているか話を聞いた後に具体的に端的にやることを伝えたりする。</li> </ul>			

このシートは、通常の学級に在籍し、校外の支援も一部受けているが、支援が比較的少ない児童生徒の支援計画と指導計画を同時に立てるシートです。校内委員会や支援会議等で決まったことを書いていき、関係者で共有しましょう。(保護者も入り定期的に会議が開催されているような児童生徒については、通常の形式のものを作成しましょう)

LD傾向の児童生徒の場合

(作成日) 平成 年 月 日

【通常の学級用】 個別の教育支援計画・個別の指導計画シート (簡易)

合理的配慮実践事例集 (H29 長野県教育委員会) P165～

	◇◇学校 年 組	担任名	〇〇〇〇
氏名 (フリガナ)	( )	男・女	生年月日 年 月
保護者氏名		連絡先:	
諸検査結果	WISC-IV等 FIQ VRI PRI . . .	実態を把握するためのチェックシ 言葉・文字 操作・動きの苦手	
相談機関	医療 〇〇病院 △△医師 福祉 特別支援学校 〇〇先生 その他 学童保育	診断名と各機関の支援 LD (書字障がい) ① 空間認知の苦手さがある。 ② 書く場所 (マス), 板書をノートに写す箇所 が明確だと分かりやすい。 ③ 書字や宿題に困ったら本人の相談にのる。	
必要な支援 (支援会議)	書字の苦手について配慮する。(板書の仕方, テスト, 宿題など) ・書く量の調整 ・板書をノートに写す箇所を明確に示す。		

諸検査、相談機関との連携がある場合には、記載する。

指導計画

指導場面	めあて	支援内容	評価
授業中	板書をノートに写すことができる。	ノートに写す箇所がはっきり分かるように、写す箇所の文字 (文章) の周囲を色チョークで囲むようにする。	囲んだ箇所を中心にノートをとることができた。宿題のときに自分のとったノートを参考にする姿があった。
テスト			
宿題			
<p>教科学習, 宿題, テスト, 生徒会, 部活など指導の場面ごとに記入する。</p> <p>校内の関わる職員すべてが、支援や配慮する点について記入する。</p> <p>その子の姿だけでなく支援の有効性についても評価する。</p>			
<p>全体を通して行う支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>字を書くときには、書く箇所を示す, マスを使う, 書く量を調整するなどの配慮をする。</li> <li>口頭で聞いた話を書き留めることは困難なので、黒板に書く, メモを渡すなどの配慮をする。</li> </ul>			

このシートは、通常の学級に在籍し、校外の支援も一部受けているが、支援が比較的少ない児童生徒の支援計画と指導計画を同時に立てるシートです。校内委員会や支援会議等で決まったことを書いていき、関係者で共有しましょう。(保護者も入り定期的に会議が開催されているような児童生徒については、通常の形式のものを作成しましょう)



(作成日) 平成 年 月 日

【通常の学級用】 個別の教育支援計画・個別の指導計画シート (簡易版1)

	学校 年 組	担任名	
氏名 (フリガナ)	( )	男・女	生年月日 年 月 日 歳
保護者氏名		連絡先:	
諸検査結果	WISC-IV等	実態把握のためのチェックシートから	
相談機関	医療 福祉 特別支援学校 その他	診断名と各機関の支援	
必要な支援			

指導計画

指導場面	めあて	支援内容	評価
全体を通して行う支援			

個別の教育支援計画・指導計画 簡易版 2

クラス	氏名	外部連携 支援会議	検査	必要とされる支援・配慮	評価 (最近の様子)
1-2	〇〇 △△	あり・なし (病院)	両眼 0.1	黒板がよく見えるよう、前から3番目以内の席、窓際はまぶしいので避ける。	目をしかめることが減っている。外では帽子のかぶり方を工夫している。
2-1	◇◇ 〇〇	あり・なし ( )	WISC	黒板回りはすっきりし、授業の予定を示す板を本人の前に置く。	好きな教科では(社会等)離席がみられなくなった。班分けに工夫が必要。
		なし ( )			
		あり・なし ( )			
		あり・なし ( )			
		あり・なし ( )			
		あり・なし ( )			

外部との連携や支援会議の有無を書きます。

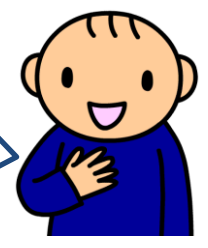
校内委員会で決定した配慮を書きます。

特別支援教育コーディネーター等が定期的に聞き取りを行います。

このシートは通常の学級内で支援を必要とする状態の子どもの情報を校内共有するために作成します。支援内容は簡単に書き、校内委員会や職員会、教務会の情報共有のために使いましょう。子どもの支援は担任まかせにせず、校内で考える視点が大切です。

また、特別支援教育コーディネーターの先生は校内の支援状況を把握し、教室の状況を見に行く、諸検査、医療との連携を推進するなどの今後の活動の計画立案のためにも、このようなシートを作っておくことが有効です。

「〇〇さん玄関掃除、隅々まで丁寧にやっていたよ」など校内の先生から教えてもらえると担任も子どもも元気が出ますね。





特別支援学級と通常の学級との連携シート（試案）（連携型個別の指導計画表）【記入例】

上段 原学級 下段 特別支援学級

(1) 各教科等の内容

※ ○…原学級と特支が共通して行う支援

3年組 氏名○○		作成者：△△（年 月～ 月）	
	ねらい	支援方法	評価（今後の方向）
日常生活 行動	○授業が終わったら、前の時間のもを片付けることができる。	○机の中の整理の仕方について写真に撮り、視覚的に示すようにする。	○写真を見ながら整理することができました。気持ちが乗らないときは手伝うことができました。
	○2時間目の休み時間の終わりには教室にもどることができる。	○休み時間の初めには担任が声をかけ、終わりには友だちに声をかけてもらうようにする。楽しく遊べたことや時間を守ったことを認め、意識できるようにする。	○トラブルがなければ、時間通り帰ってくることができました。楽しく遊べるが増えました。トラブルへの対応が課題です。
対人関係 コミュニケーション	○嫌な時やわからないときには、自分の気持ちを穏やかに周りの人に伝えることができる。	○落ち着かなくなってきたときは「落ち着けカード」を渡し、自覚できるようにする。	○落ち着けカードにオニヤンマの写真を貼り、初期のうちに渡すと落ち着けるが多かったです。
	全ての欄を使うのではなく、交流及び共同学習ができそうな項目のみにする。	・本人の言いたかったことを周囲の人が代弁しながら、適切な表現に近づけるようにする。 ・「困ったカード」を出したら援助をする。 ・昆虫や生き物への興味を生かし、発表の機会をとる。	・「困ったカード」はなかなか使おうとしませんでした。忘れ物をしたとき一度だけ使用しました。
国語	○小学校3年生の内容に準ずる。	○落ち着かなくなってきたときは「落ち着けカード」を渡し、自覚できるようにする。	○「〇〇は友だちがほしいんじゃないかな」という発言をし、友だちが共感してくれたことで、以後率先して発言しました。
	・自分の思いを表現できるようになる。	・適切な言葉が浮かばないときには、援助し、表現する楽しさを大切にする。	・SSTで行った内容を繰り返し示すとよいことがありました。「聞いてほしいことがあります」と自分で言えたことがありました。
算数	○小学校3年生の内容に準ずる。	・本人の言いたかったことを周囲の人が代弁しながら、適切な表現に近づけるようにする。	・「困ったカード」はなかなか使おうとしませんでした。忘れ物をしたとき一度だけ使用しました。
	○10分程度は計算問題に集中して取り組むことができる。	・発言の機会をできるだけ毎時間とるようにする。適切な言葉が浮かばないときには、援助し、表現する楽しさを大切にする。	・SSTで行った内容を繰り返し示すとよいことがありました。「聞いてほしいことがあります」と自分で言えたことがありました。
社会	○班の友だちと一緒に調べたことをまとめ、発表することができる。	・作文、日記は「うれしい」「悲しい」などの語句カードを使って気持ちについても書けるようにする。	○「〇〇は友だちがほしいんじゃないかな」という発言をし、友だちが共感してくれたことで、以後率先して発言しました。
	○班の友だちと一緒に調べたことをまとめ、発表することができる。	・計算問題は少ない量をまず提示し、終わったら残りの問題に取り組むようにする。	・運動会の作文では1位になれなかったことを「くやしい」とカードから選び書くことができました。
理科	○昆虫や植物などの興味や知識を生かして、班や学級の友だちに教えることができる。	・ひっ算は慣れるまで、色分けしてあるマス目の計算用プリントを用意し、原学級でも使えるように練習する。	○学期の初めは3問程度の計算から始めましたが、「もう少し頂戴」というようになっていきます。
	○昆虫や植物などの興味や知識を生かして、班や学級の友だちに教えることができる。	・仲の良い友だちと同じ班になるように配慮する。 ・地図などは先に薄く下書きしたり、色を塗る範囲を囲んだりして安心して取り組めるようにする。	○友だちのまとめのノートを参考に自分も書き込む姿がありました。本時に記入する箇所を印をつけると安心するようです。
体育	○ルールを理解し、友だちと一緒にゲームに参加できる。	・本人の知識や取り組みを他の児童に知らせるようにし、得意な点をクラスで生かせるようにする。	○友だちのまとめのノートを参考に自分も書き込む姿がありました。本時に記入する箇所を印をつけると安心するようです。
	○必要に応じて友だちにボールを渡すことができる。	・新しい単元に入るときに単元の内容についてあらかじめ資料を読んだり、地域のことについて話し合ったりして見通しがもてるようにしておく。	・昆虫の種類や様々な特徴を班の友だちに発表することができました。
体育	○ルールを理解し、友だちと一緒にゲームに参加できる。	・次の時間に行くことを予告し、楽しみにできるようにする。	・次の授業について少し予告するだけで、とても楽しみにする姿がありました。
	○必要に応じて友だちにボールを渡すことができる。	○チームの友だちとルールの確認をするようにする。ゼッケンやタスキを活用し、チームが分かるようにする。思い通りにできず気分が優れなくなったときには少し休むようにするとともに、うまくいったときにしっかりと認めるようにする。	・次授業について少し予告するだけで、とても楽しみにする姿がありました。
体育	○ルールを理解し、友だちと一緒にゲームに参加できる。	・新しい単元に入るときには少し体験したり、ルールやコツを確認したりしておく。	・新しい単元に入るときに単元の内容についてあらかじめ資料を読んだり、地域のことについて話し合ったりして見通しがもてるようにしておく。
	○必要に応じて友だちにボールを渡すことができる。	・新しい単元に入るときには少し体験したり、ルールやコツを確認したりしておく。 ・キャッチボールなど、相手に合わせるとうまくいく運動を行う。	・キャッチボールでは、友だちによっては優しく投げる姿が見られました。

音 楽	○リコーダーの演奏を楽しむことができる。	○リコーダーの練習を教師と一緒にやる。穴をふさぎやすいようテープを貼るとともに、絵音符を使ってわかりやすくする。1曲できるとにシールを貼り、達成感がもてるようにする。 ・事前に曲を聞いたり、練習をしたりして、見通しがもてるようにしておく。指使いなどの調整を個別指導で行う。	
図 工	○様々な色を混ぜて楽しみながら絵を描くことができる ○絵の具の使い方がわかり、出したり片付けたりすることができる。	・全体の構想を考えるとときに、友だちのアイデアや工夫の発表の時間を設ける。構想や下書きまでを原学級で行う。手順表を渡し、全部塗ったらおしまいなど、見通しがもてるように支援する。 ・絵の具を並べながら混色し、自分の塗りたい色を選ぶことができるようにする。 ・準備や片付けは、方法を示したカードを使って、できるだけ一人でできるようにする。	
総 合	○大好きな生き物への興味を生かして、調べ学習をする。同じ課題の友だちと分担して調べることができる。	・写真や地図などを使ってまとめる方法を提示し、調べたことをまとめやすくするための援助をする。 ・本人の話や聞いた話、集めた資料を見ながら一緒に整理したりし、発表する意欲がもてるようにする。	
道 徳 ・ 特 活	○小学校3年生の内容に準ずる。	・教材の話が把握できるように、挿絵や吹き出しを使ったり、実際に動作化したりする。 ・行事については予定をしっかりと伝えるときに、本人と一緒に目標を設定するようにする。 ・行事については時間や絵、写真の入った予定表を渡し、見通しがもてるようにする。 ・落ち着けカードや困ったカードを使えるように確認を行う。	
			・行事の予定表により、予定を班の友だちに教えることができ、落ち着いて楽しく参加できました。 ・困ったカードの使用は少ないですが、いざという時に使えることで落ち着いていました。
そ の 他	○給食当番などの仕事をやり終えるまで取り組むことができる。	・当番としての仕事をカードにして渡し、自分で確認ができるようにする。よくできているときの姿を本人と確認する。 ・掃除は特別支援学級で行い、物差しを使って拭き進んでいくことで、仕事の進行具合が把握できるようにする。	○給食当番はあまり好きではないようですが、カードを見ながら一通り取り組む姿がありました。

## (2) 育ちの姿 (両方の学級が相談して育った姿を書く)

○特別支援学級での励ましや、予告、練習等により次第に自信をもって取り組めることが増えてきました。予定表が特に役立ち、今までやり通すことが難しかった当番の仕事などもやり通すことができました。原学級の友だちに認められる経験により、穏やかに自己表現できることが多くなっています。今後も原学級、特別支援学級で相談しながら、〇〇さんのがんばりを支えていきたいです。

## (3) 必要とされる合理的配慮

必要とされる合理的配慮	配 慮 内 容	評 価 (今後の方向)
○予定や手順などを示し、見通しをもつことができるようにする。  ○自分の思いを適切に伝えることができる。	・授業の際には授業の流れを掲示する。作業などの手順は手順が分かるように箇条書きと絵や写真の入ったプリント等を用意する。  ・本人と気の合う友だちとともに活動できるように班分けなど配慮する。よいかかわりのできる友だちの様子をクラスに伝え、ほかの友だちも意識できるように促す。 ・「困ったカード」を使い、うまく伝えられないときは援助が求められるようにする。不安定になった時には「落ち着けカード」を渡し、自分でコントロールできるよう援助する。	・手順や予定が書かれた紙はとて頼りにしており、そのためか給食当番や日直の仕事などにも取り組むことができました。 ・班の友だちが、「Aさんよくがんばったね」など認めてくれたことをきっかけに友だちとの関わりが増え、原学級で穏やかに表現する姿が見られました。 ・落ち着けカードは不安定になる初期の頃に渡すと自分で自覚してコントロールすることがありました。

特別支援学級と通常の学級との連携シート（試案）（連携型個別の指導計画表）

上段 原学級 下段 特別支援学級

(1) 各教科等の内容

※ ○・・・原学級と特支が共通して行う支援

年 組 氏名		作成者： ( 年 月～ 月)	
	ねらい	支 援 方 法	評 価
日常生活			
行 動			
対人関係 ・ コミュニケーション			
教 科 等	国 語		
	算 数		
	社 会		
	理 科		

体 育			
音 楽			
図 工			
総 合			
道 徳 ・ 特 活			
そ の 他			

(2) 育ちの姿 (両方の学級が相談して育った姿を書く)

--

(3) 必要とされる合理的配慮

必要とされる合理的配慮	配 慮 内 容	評 価 (今後の方向)

\*教科等は必要な欄のみ選択して記入しましょう。(初めからすべて書き込もうとしないで、話し合いながら記入していく) 本人の様子、育ちをみながら、更新していきましょう。

## 「連携型個別の指導計画のポイント(特別支援学級と原学級との連携)」

○特別支援学級の児童生徒で交流及び共同学習が行われている場合はこの形式で計画してみましょう。

### 「連携型個別の指導計画を作成するには」

- ・学校生活の中で交流及び共同学習が可能な場面、教科等を考えます。
- ・本人や保護者のニーズを把握します(願い)。

次に、実態を踏まえて目標を設定します。本人の目指す姿や学びのほか、原学級の子どもたちの目指す姿や学びについても検討します。

目標に照らし合わせ、再度場面ごとの学びの場を検討し、決定します。それぞれの場での指導のねらい、指導支援内容、その役割分担や協力体制についても話し合います。合理的配慮、評価基準も明らかにしておきます。

指導を実施し、評価します。その子の目標の達成状況を具体的に評価します(個人内評価)。さらに、目標設定や指導支援の内容、学びの場の妥当性についても評価しましょう。原学級の子どもたちについても同様に評価します。評価をもとに、随時改善や変更を行います。

学期末、学年末に再度集まって評価について話し合います。特別支援学級と通常の学級とで合わせてどのような学びがあり、成長が達成されたのかということを決めます。同様に原学級の子どもたちの成長についても評価を行います。

子どもの成長だけでなく、指導支援の評価も同時に行います。これを踏まえて今後の計画を立てます。担任、教科担任が共通して有効と考えた支援については引き継ぎ、次年度みんなで行うようにしましょう。

### 「連携のポイント」①

学校生活の中で、共に学べる可能性の検討をしましょう。具体的場面を考え、前向きに、しかし無理のない学びの場を柔軟に考えましょう。一日あるいは一週間の生活をその子の立場に立って通してみる視点も大切です。

まずは、担任同士が話し合ってみましょう。担任同士の意見交換、情報交換により、計画の立案がスムーズになります。

### 「連携のポイント」②

特別支援学級で行われている支援はそのまま通常の学級で行うのは難しい場合もあります。

集団の中で学べることを明確にし、支援情報を積み重ねていきましょう。評価からさらに交流及び共同学習の内容を検討しましょう。

### 「担任・担当同士の連携から」

原学級の担任、教科担当と特別支援学級の担任との連携により、周囲の子どもたちへの理解が深まります。また、その子への支援は他の子の支援にも生かせることが多く、互いの授業改善にもつながります。





# 通級指導教室と在籍学級との連携シート

## 連携型個別の指導計画(試案) 【記入例(LD等通級指導教室の場合)】

対象児童・生徒 年 名前

通級指導教室 学校(担当: )/原籍校 学校(担任: )

<p>実態 (検査結果, 医療との連携, 《主訴》生活上・学習上の状況等)</p> <p>WISC-IV (H30.2.16) VCI PRI WMI PSI</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉の数は多いが, 抽象的なことを理解したり, 推理したりするのが苦手である。見通しがもちにくい。</li> <li>友と遊ぶときやゲームをするときには, 自分のルールで遊ぼうとするのでトラブルになりやすい。</li> </ul>
--

<p>目標 (前期・後期) ※通級と在籍学級が共通</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゲーム (体育や SST) では, みんなの話を聞いたり, ルールを守ったりして最後まで活動する。</li> </ul>	<p>本人の願い・保護者の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イライラしないで友と楽しく遊びたい。体育の時はみんなと協力して最後までやりたい。(本人)</li> <li>みんなと仲良く一日を過ごしてほしい。(保護者)</li> </ul>
---	---

<p>通級指導教室における指導目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師や友が話しているときは静かに待てる。</li> <li>ルールや活動に見通しをもって活動する。</li> </ul>	<p>在籍学級における指導目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師や友が話しているときは静かに待てる。</li> <li>ルールや活動に見通しをもって活動する。</li> </ul>
---	---

<p>通級指導教室における指導内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会性を高めるグループ SST を実施する。</li> <li>グループ SST の中で毎時間, 「話すのは一人だけ」というルールを守れるようにする。</li> </ul>	<p>在籍学級における指導内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>話したいときには手を挙げて発言をする。</li> <li>みんなで決めたルールを守って活動する。</li> </ul>
---	--

<p>通級指導教室における具体的な支援と配慮点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「話すのは一人だけ」と書いた紙を黒板に提示し, 授業の初めに確認する。</li> <li>活動のルールや活動内容を職員が演示をしてみせる。演示の中で本人が気づいたルールや活動のやり方について発表する機会を設け, 発表内容を黒板に提示をして確認する。</li> </ul>	<p>在籍学級における具体的な支援と配慮点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>通級で使っている「話すのは一人」, 「話したいときは手を挙げる」と書いた紙 (絵) を授業の始めに確認する。手を挙げたら発言する機会を設ける。</li> <li>ルールの書いた紙を提示する。活動の内容は演示をしたり, 映像を見せたりして確認する。</li> </ul>
--	---

<p>在籍学級で必要とされる合理的配慮 本人, 保護者の意見 ※ 合意形成を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>やることやルールは, 視覚的に分かるように提示をする。</li> <li>クラスのルールや活動内容は, 個別に確認したり, 質問の時間を設定したりする。</li> </ul>
---

<p>評価 (育ちの姿)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>通級教室で, 通級担当と一緒に通級用とクラス用の「話すのは一人だけ」「話したいときは手を挙げる」と書いた紙を作成しました。通級のグループ SST の授業で練習したことにより, クラスでも話したいときにスッと手を挙げて発言する姿が増えています。</li> <li>体育の授業の最初に教師が演示, 見本を示すことで, やることをしっかり理解して活動に取り組みました。友と最後まで活動でき, 終わった後は「楽しかった」とにこにこしました。</li> </ul>
---

<p>通級指導教室の今後の方向・来年度への引継ぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ SST を継続する。</li> <li>見通しがもてるように手順表の作成の仕方と困ったときに「教えてほしいこと」の伝え方の練習をする。</li> </ul>	<p>在籍学級の今後の方向・来年度の引継ぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今までの支援の継続に加えて, 通級で作成した自分専用の手順表を活用する。</li> </ul>
---	--

# 通級指導教室と在籍学級との連携シート

## 連携型個別の指導計画(試案)

対象児童・生徒

年 名前

通級指導教室

学校(担当: )/原籍校

学校(担任: )

実態 (検査結果, 医療との連携, 生活上・学習上の状況等《主訴》)

目標 (前期・後期) ※通級と在籍学級が共通

本人の願い・保護者の願い

通級指導教室における指導目標

在籍学級における指導目標

通級指導教室における指導内容

在籍学級における指導内容

通級指導教室における具体的な支援と配慮点

在籍学級における具体的な支援と配慮点

在籍学級で必要とされる合理的配慮 本人, 保護者の意見 ※ 合意形成を図る

評価 (育ちの姿)

通級指導教室の今後の方向・来年度への引継ぎ

在籍学級の今後の方向・来年度の引継ぎ

## 「連携型個別の指導計画のポイント(通級指導教室と在籍学級との連携)」

○通級指導教室での指導をより効果的なものにし、その成果を在籍学級での授業や生活に生かしていくには、指導のあり方を含め、関係者間の密な情報共有が重要になります。通級指導教室と在籍学級とが児童生徒の実態を共有し、指導に一貫性がもてるようにこの形式で計画してみましょう。

### 1 連携型個別の指導計画の作成の仕方とポイントについて

#### 「連携型個別の指導計画作成のポイント」

- ① 在籍学級担任、通級指導教室担当、保護者、本人とともに作成
- ② 何を目指し、どのような内容で、どのような支援を行うかの合意形成
- ③ 明確な合意形成は、確実な効果に直結

#### 「個別の指導計画をどのように作成すればよいか」

- ・はじめに、子どもの現在の状況(つまりきや得意な力、興味関心、認知面等)を多角的に把握できるような実態把握を行います。
- ・さらに、本人や保護者のニーズを把握します(願い)。

次に、実態把握や本人や保護者のニーズに基づいて、どのようなことを目指したいか、目標にしたいかについて方向性を探ります。

続いて、その目標を達成するための具体的な指導内容を決めます。目標に照らし合わせ、まずはどのようなことから取り組めばよいか、目標達成に導く支援、合理的配慮、評価基準も明らかにしておきます。

そして、実際の指導です。立てた計画が適切であったか。目標は妥当であるか、指導内容は適切か、支援の量や質はニーズに合っているか等の評価を行います。必要に応じて、計画の修正を行います。

最終的な段階では、個別の指導計画に基づいた指導を学期や年度ごとに評価し、来年度に引き継いでいきます。子どもの能力にどう変化が見られたか、目標としたスキルの獲得は実現されたか、残された課題は何かなどの評価を行います。同時に大切なのは、指導した側の評価も併せて行うことです。

#### 「共有・連携のポイント」

①

実態把握をする際には、先生同士がお互いに授業参観をします。在籍学級担任が通級指導教室の授業を参観することは、個別に授業をしているために、児童生徒の頑張りや困難さが見えてきます。

また、個別の指導計画を理解した上での参観により、指導の根拠や理由を実感することがで

#### 「共有・連携のポイント」②

教材・教具、指導方法の工夫等を共有します。学びやすい文具類などの教材教具や支援機器、プリント類の工夫、自信や意欲を高める言葉かけや評価の工夫などがあります。

#### 「担任と担当の指導・支援の連携から」

通級指導教室担当と在籍学級の担任における児童生徒の個別的な指導・支援を考えることは、学級の他の子どもたちの指導・支援にもつながっていきます。



### 3 長野県教育委員会刊行の特別支援教育に係るシリーズ本の紹介

※ 長野県教育委員会のホームページからダウンロードできます

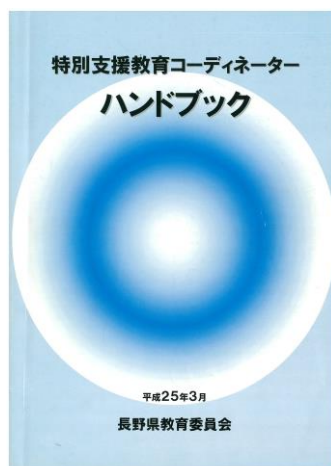
#### 特別支援教育 教育課程 学習指導手引書 (共通・連携編、小学校・中学校編、特別支援学校編)

多様な教育的に対応するための連携した支援のあり方や、一人一人の実態に合わせて応用できるような事例等を掲載



#### 発達障害児等を支える指導・支援事例集 ～すべての子どもが輝き、 共に学び共に育つ学校を目指して～

小・中学校の通常の学級における指導・支援のあり方、一部学級外での指導・支援が必要な子どもたちへの連続的で多様な教育対応等についての県下の取組を掲載



#### 特別支援教育コーディネーターハンドブック

すべての幼稚園・小学校・中学校・高等学校で指名されている特別支援教育コーディネーター。いつ、誰が指名されても、見通しを持って活動に踏み出せるよう、取組のよりどころとなる内容を掲載

## 特別支援学級ガイドライン

適切な特別支援学級経営のあり方、最も適切な教育を行うための教育課程等、初めて特別支援学級の担任になった教員にも分かりやすく解説するとともに、特別支援学級と原学級の連携のあり方等も掲載



## 教育支援ハンドブック



平成27年3月  
長野県教育委員会

## 教育支援ハンドブック

保護者や市町村の就学相談担当者、学校関係者の共通理解のために、学校教育法施行令の一部改正（平成25年9月1日）により変更した「教育支援」の基本的な考え方や手続きのあり方について掲載

## 通級による指導ハンドブック

「通級による指導」の概要（ことばの教室、LD等通級指導教室、盲・ろう学校における通級）や指導の内容、校内体制づくりのポイント等に加え、県下の小学校における実践事例について掲載

## 通級による指導 ハンドブック



平成28年3月  
長野県教育委員会

## 合理的配慮 実践事例集



平成29年3月  
長野県教育委員会

## 合理的配慮実践事例集

障がいのある子どもたちが一人一人の実態に応じた「合理的配慮」の提供により、周りの子どもたちと同じスタートラインに立ち生き生きと学ぶ県下の事例に加え、地域を巻き込んだ「共生社会」実現の原動力となる副次的な学籍の事例について掲載